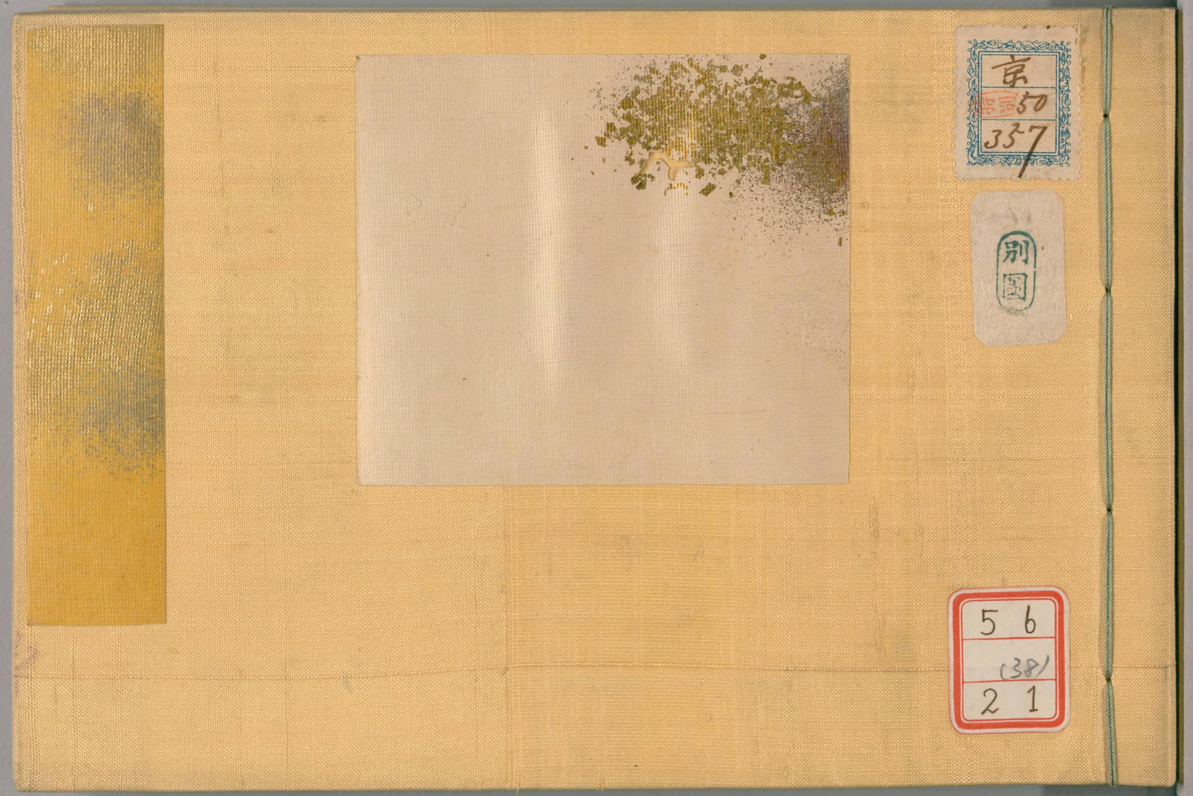
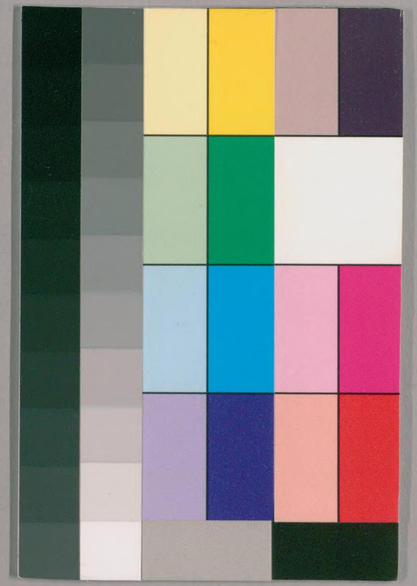


京
50
357
別圖
5 6
(38)
2 1



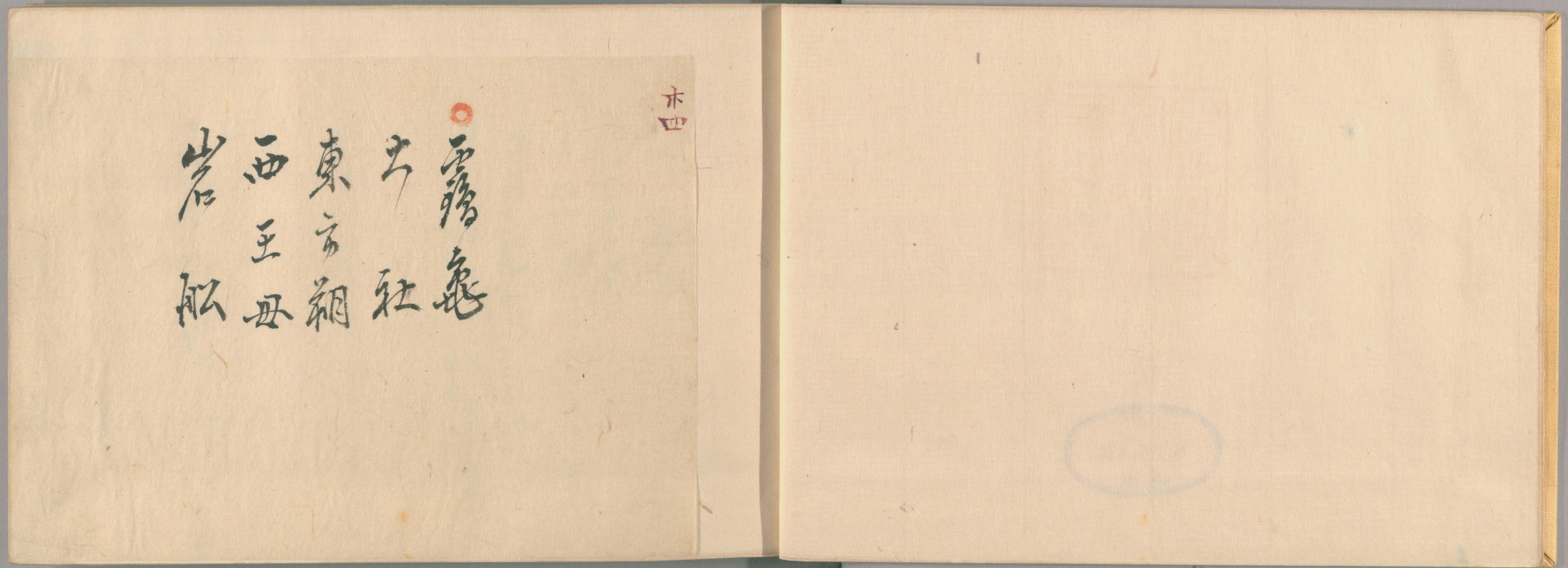
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

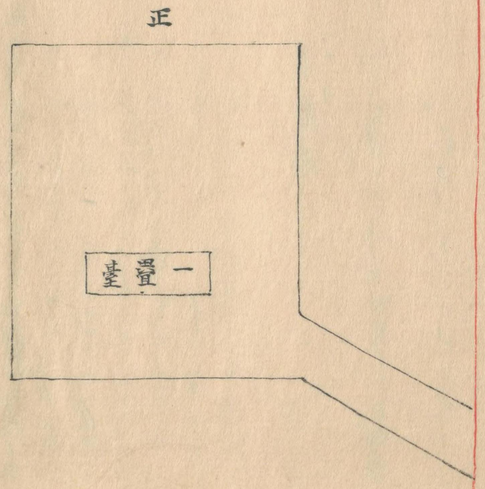


国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

鷺龜

裝束之覺



シテ　唐冠　色絲　摩收　狩衣　半切　腰帶
唐團扇

鷺　面ツレ面　カツラ同帶　黒タレ　着付箔　長絹
大口　腰帶　扇　臺帽鷺ノ立物

龜　面前シテ　色絲巻　白タレ　着付摩收　大口
直狩衣　腰帶　扇　臺帽龜ノ立物

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

ツレ舞付

●出羽ニテ靄先ニ立出橋カヽリニテ足トメ●亀ハ第年のト謡出スト二人ヒニツユトリナカラ舞臺ヘ入靄ハシテノ左ノ前ヘ出亀ハシテノ右ノ前ヘ出●手代をやト足トメ雲取らんト出ヒラキメツハイ舞ニイイトメ小ヨリ左右ヲ込ヒラキ●手代のたゝし中左右ヲ込ヒラキ●何をひゝ南しヨリ亀正ヘ出●藤掛ヘハト亀ヒラク●藤掛ヘハト靄正ヘ出行カヽリ●丹頂の靄もト二人ヒニサシ右ヘ辺リシテノ方向ヒラキ●庭上ニ家向ト二人ヒニ下ニヲリ●アけれハト立宿タミナカラ地謡坐ノ前ヘ行下ニ居ヤ正面向キヲル●シテトメ柏子スミ立シテノ跡ニツキ入ル

大小坐附ト大宮ノ作物大小ノ前ヘ出シテ唐ウチワモ千来序ニテ出藤臺ノ内ニ入月付柱ノ

舞附

シテサシ
キワマデ行足トメ左ヘトリ左ノ足ヨリ臺ヘ上リ正ヘ向床机ニ向ヘル太鼓ガ上テ謡出ス

夫春陽の春になれは四季の節会ありたし兎 地 不老つまて日月の光りを天子の恵いらんまて シテ 百官帰相にいたる近衛をつらぬ全ひきをつき 地 ま数一億百餘人 シテ 拝をすゝむるまんこの声 地 一同に御きらさ音ハ シテ 天にひゝ紀ゝ 地 をひゝてし 上ヨ同 庭のいさゝこハ雲張のく

玉をつゝぬて愛妙のいをへ忠節や海理のと同そ志やこの行桁めのよ忠橋池の汀志靄亀ハ蓬莱山をよそなら江君の恵をそなりけし 大臣 いかに奏ゆけ シテ 奏ゆとハ何なそ 大臣 毎年の恵例のことく靄亀をまいをられ其後月宮殿にて示を奏をられよきらかてく シテ 亀も角をもたゞいゝへ 上地 亀ハ第年の数を経靄も手代をやかを思らん

上同 手代のた兎し志数ゝにく何をひゝ後し姫小松忠家の亀を藤掛へもたんてやうの靄を一千年の数を君にさつけ申り 庭上ニ家向ト申ルト 左右ト子方ヲ見ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

立左ノ足ヨリ臺ヨリヨリ
君を祈りんの祈りの祈り小や舞楽の秘世
ヒラキ
ハおもしろや樂 キリ上ヲ 月宮殿の宮元君た
中左右折込ヒラキ
もとしくの色々 正ヘ出ヒラキ 物なるもの袖 角ヘ行
ハ時雨のもみち君を袖 左辺リ 冬ハさへ行
宮のたもとひるへも衣も薄紫の雲 正ヘヒラキ
のうへ人君舞楽乃 ルー 竜ゝよ けんせうう
るの世をかせハ山海菓木 左ニテサシ右ニテサシ右ヘ辺リ 国土ゆゝ
うよ手代ゝ行つ代と舞 正ヘヒラキ 宮 正先ヘ出両
袖マキシテ柱ノ方ヘ行
人か樂丁みさしをもや先君のよわ
いも長生殿 小辺リヒラキ 君君よわひも長生
殿ニ還御 袖カヘシトメ 有家しそ目出ゝけ連

樂ノ終リ小辺リ左右折込ヒラキ月宮殿ト謡出ス
樂タツハイアリ跡常ノ通リ拍子フミ音テモヨシ

両袖ハ左ノ袖マキシテ柱ノ方向キナガラ右ノ袖マク

鷹亀子方三段舞附

● 二段メ近常ノ通リ二段ノヲロシニ袖カフリ向合亀先
二立鷹アトニツキ角ヘ行左リ廻リ亀ハワキ坐ノ方
鷹ハ正中ニテ大小ノ方向袖ヲロシ左ヲ先ヘ出シ大
小ノ方ヘ行爰ニテ左右入リカワル夫ヨリ常ノ通リ
● 又三段メヤリくノ時ヒラキナシニ扇折返シサカ
手ニ持サシ廻シテ亀ハ先ニ立鷹ハアトニツキ右廻
リ笛ノ方ヘ行カヽリ爰ニテ左右元ノ通リニ入カワ
ル此末常ノ通リ
二段目ヲロシ鷹ハ笛坐ノキハニテ袖カフル由市十郎申上ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

大小生付クト大宮ノ作リ物大小ノ前ヘ出
シテ唐ウチワモチ
ライ常ニテ出舞
臺ノ内ヘ入目付柱ノ
キハニテ行足トメ左
ヘトリ左ノ
足ヨリ臺ヘ
上リ正ヘ向床
ルニヤル太鼓
打上テ謡出ス

七 鶴亀

夫青陽の春になれハ四季の節会の事始　不老門にて日月の光りを天子の叡覧にて　百官卿相袖をつらね其数　一億百餘人　拝を進むる万戸の声一同に拝する其音ハ　天に響きて　夥し　庭の砂ハ金銀の玉を連ねて敷妙の　五百重の錦や瑠璃の扉　硨磲の行桁瑪瑙の橋　池の汀の鶴亀ハ蓬莱山も　よそならす　君の恵そ有難く

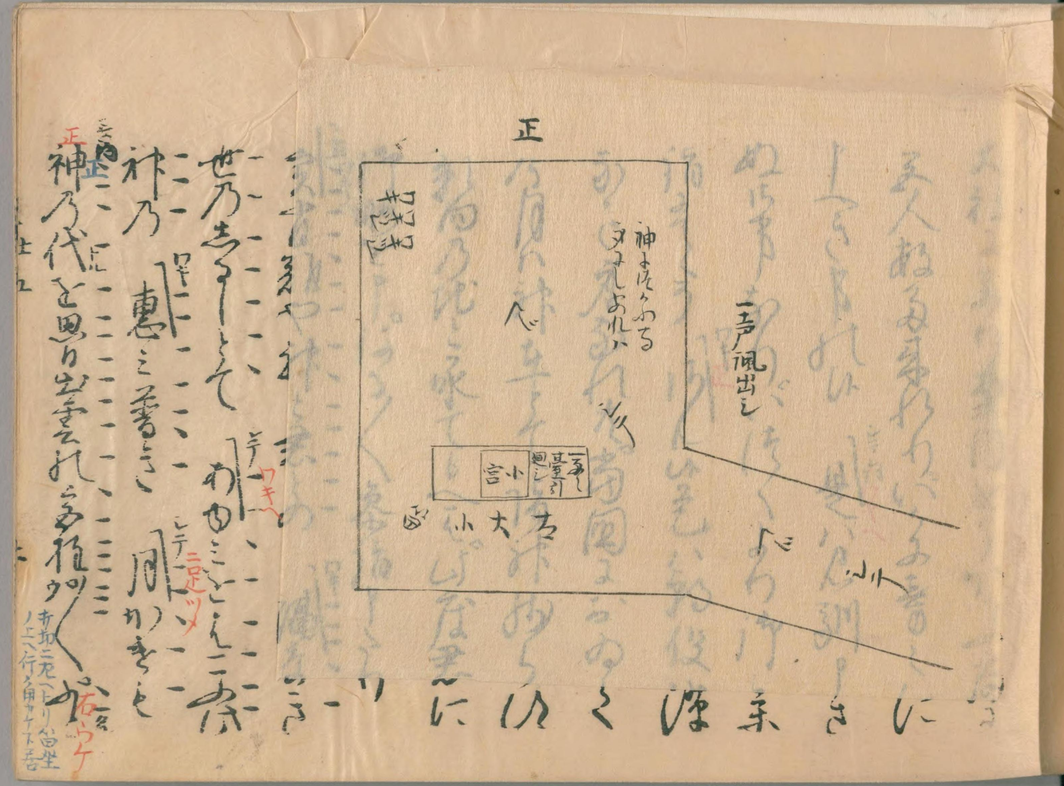
大臣詞　いかに奏聞申し　奏聞すへき事そ

大臣　毎年の嘉例の如く　鶴亀を舞せられ其後月宮殿にて舞楽を奏せられうするにて候

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

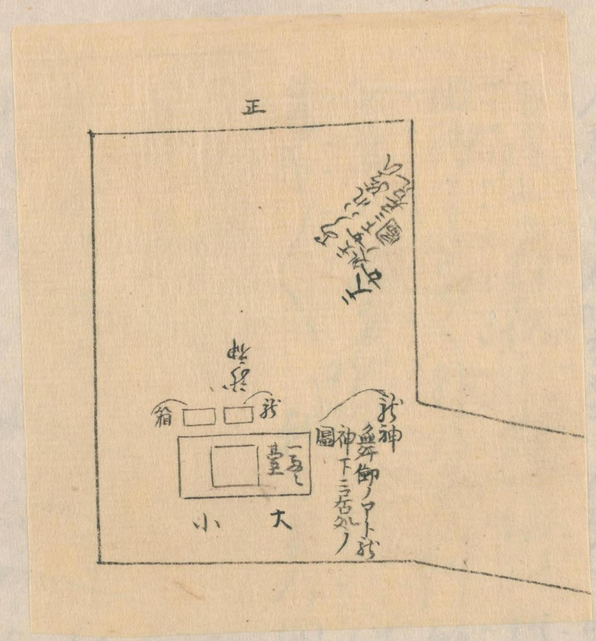


国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

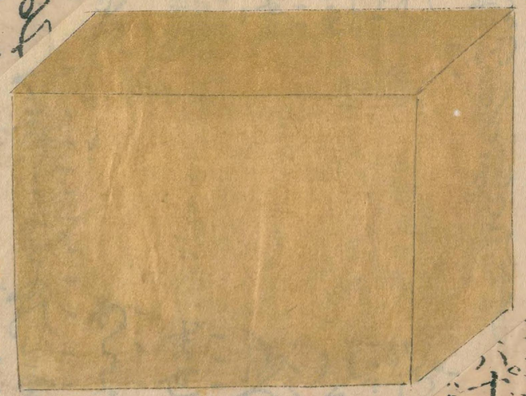
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

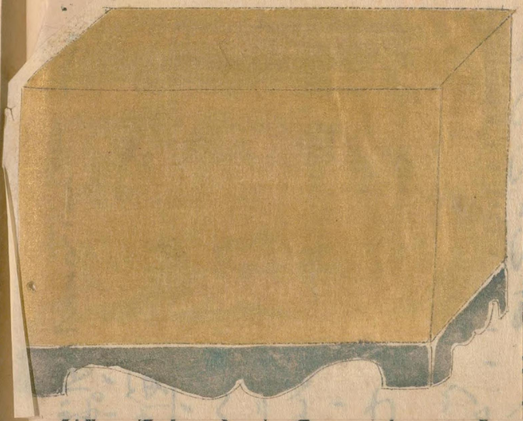


国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用　挟み込み物



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

うしぢりまくうしほよひれ
ゆきハ諸神ハ虚空ヲ通海
しつくなるあらたなる神ハ
社内ハ天下ハ明る神ハ社
内ハ竜神ハ海中ヲ入ヲ分り

龍神舞附

抑 是ハ

●神前ヲ拵ヲ

●諸神利

●汀ヲ渡り沙ヲ蹈ヒ

●渇仰せ是 ●其時竜神 沙ヲ蹈ヒ

●内ヲ沙ヲ 海陸ヲ

●実ヲ渡り

●龍神ヲ渡り

ワキ罡出ヲモワキ
アリワキツレ三人来
扉ニテ出一ヲモ是ニ
ヘヲモワキ
アガリ

犯言ロアケ

東方朔

蓋ノ具連天女附

墨ロキ附

朱ニテ附

裝束之覚

大夫面小牛尉 襟浅黄 忌附小格子 外衣 腰帯 尉髪
扇

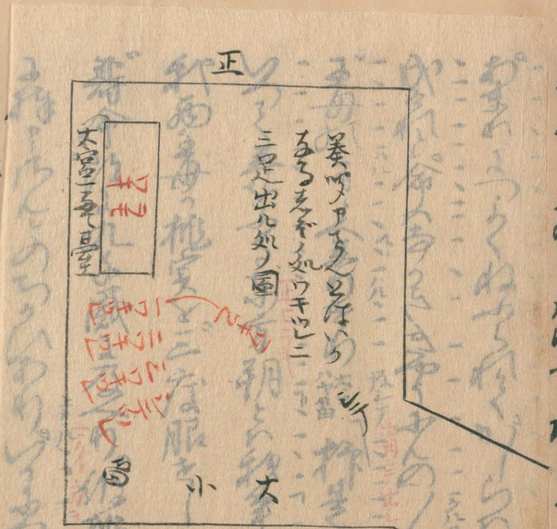
前連男立面 腰帯 扇 襟赤 忌附厚板

後大夫面鼻瘤 襟白 忌附昭厚板 半切 狩衣 腰帯
白垂 鉢巻 鳥甲 唐團

天女面連面 襟赤 忌附宿 白大口 腰帯 弄緒
カヅラ カツラ帯 黒垂 天冠 桃盃ヲ持
扇サシ

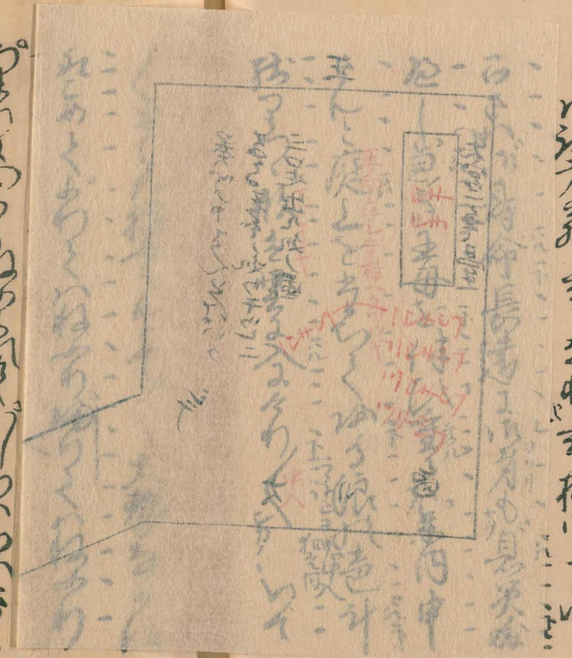
大宮一重ヲ是ヲ作物大宮大小ヲ付ト出ス引ヒ上カケズ
八右馬流犯言ノ詞書有之ヲ以観世流ニテハ是ヲ用ヒス犯言トシテトノ
忽合一句ヲ之ヲ出テシヤベリ有之ヲ

なきぞ是君の御威光 庶きに恵ハ
有りてやく
治まれる世代の光
ヲ数ならぬ身迄も安きに侍ら
恵こそひろき此君の御命をもの事



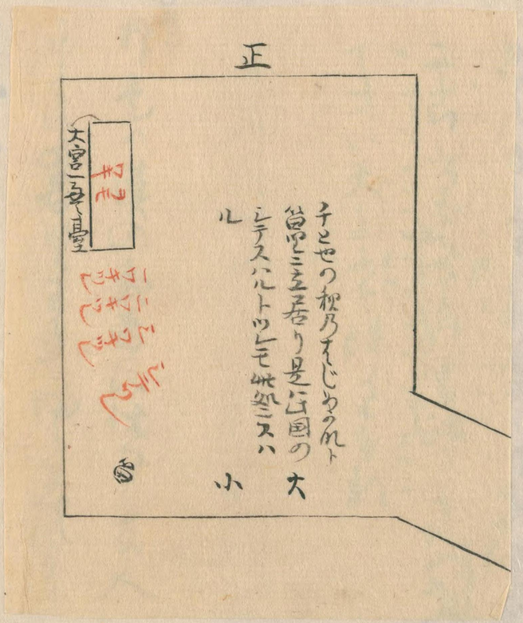
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用　挟み込み物

たるかなくても春常ハ永ろうとれ
ものて是と出てるしや誠に是ハ目
おさき事志や（此詞ノ内桃仁橋掛リニ出テ一ノ杢ニテ）柳
是ハ西王母の桃乃ゆかな者桃仁の
情なり（桃仁ヲ見付テ）仙人イヤ何まくふ
しきる者が出ましたる頼て見まるか
よう門地語り（桃仁ニ向ケテ）仙人是ハ出るハ
いかなる者ぞ（桃仁）さて面くハいかなる人
ぞ是ハ此山のうち東に住仙人なくは
よ（桃仁）某もこたぐ弁まくは是こ
そ西王母の某の桃の事に何ふ桃仁の
情なくは　何ハ桃仁の精なくはこの
中くの事目出度ニ代なれハ桃実と

君にさしけるかにまるも是と
出てハ（仙人）此ハ目出たるハ暫ましく待
て給ひへ（桃仁）心得申ハ（ツレ仙人ノ方ヘ行テ）仙人いや
やく何是ハ桃仙の精じやこや一下祝ひ
り祝ぶらふてハ口地ぶぬか　是ハよふ口
ざ待う（仙人）言通申ませう（桃仁ノ方ヘ行テ）
仙人いかにそう仁申ハ是に小仙人ともの
ほがかの桃をぬくまる事ハなるまいな
ぞに桃仁の一下祝ひり祝ひりこまし
よしやハ何事祝ひてあるへ
（桃仁）やすまるまてへた語りへらふ物を
仙人いやく無る事ていなるまい
（桃仁）是ハ近ぐの遠志なるぞら祝ひ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

西王母

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

西王母

又　箱内ニテ笠之首能ニスルトキ本越一声ニテ
ツレツレ出橋カリニテ足トメ謡ニ出ス又

●桃ノ花ノ枝右ニカタゲ本越一声ニテツレラ先ニ立出橋カリニテツレト向合ツメ足ナク桃本ノ枝ヲ

かゝ〳〵ト謡キリツゞミ長地クヅシツケ打是ヨリ桃ノ枝ヲロニ一寸枝ヲ見ヨリフタイ〳〵入シテ柱ノ先ニテ足トメ面白や四海なびく〳〵のト謡フ●皆笠ヲかのツレト向合●後シテも笠ノ字ヨリツレト入カワリ直ニ中ヘ行ワキツレ〳〵向此末同断

右本越一声ニテ出橋カリニテ向合謡フ時ノツレノ業

●本越一声ニテ桃ノ枝右ニカタケシテノ先ニ立出一ノ松ニテ足トメシテト向合ツメ足ナク桃本のなびくのト謡イキリツゞミ長地クヅシツケ打是ヨリ桃ノ枝カタゲナリニフタイ〳〵入中ヘ行正向立ヲル此末真ノ声ノ時ト同断

又　箱内ニテ笠之首能ニスルトキ本越一声ニテ
ツレツレ出舞臺ノ内ニテ足トメ謡イ出ス業

●桃ノ花ノ枝右ニカタケ本越一声ニテツレラ先ニ立出フタイ〳〵入ブタイノ内ニテツレト向合桃本のなびくのト謡イ出ス●落もかし〳〵ト謡キリ正面桃ノ枝ヲロニ面白や四海なびくのト謡イ出ス●皆笠とても此モノ字ヨリツレト入カワリ直ニ中ヘ行ワキツレ〳〵向此末同断

右本越一声ニテ出舞臺ノ内ニテ向合謡フ時ノツレノ業

●本越一声ニテ桃ノ枝右ニカタケシテノ先ニ立出フタイ〳〵入中ヘ行シテト向合ツメ足ナク桃本のなびくのト謡フ●落もかし〳〵ト謡キリ正向●皆笠とても此末真ノ一セイノトキト同断

又本越一声ニテツレツレズシテ一人ノ業

●本越一声桃ノ花ノ枝右ニカタゲ出フタイノ内ニテ足トメ桃本のなびくのト謡イ出ス●落もかし二足下リ桃ノ枝ヲロニ面白や四海なびくのト謡イ出ス●皆笠とても此モノ字ヨリたゝトリワキツレ〳〵向行足トメいろ〳〵奏ノト謡フ此末同断

●箱附ハ勿論真ノ一声ニテモ本越一声ニテモ首能ニスルトキハ初

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

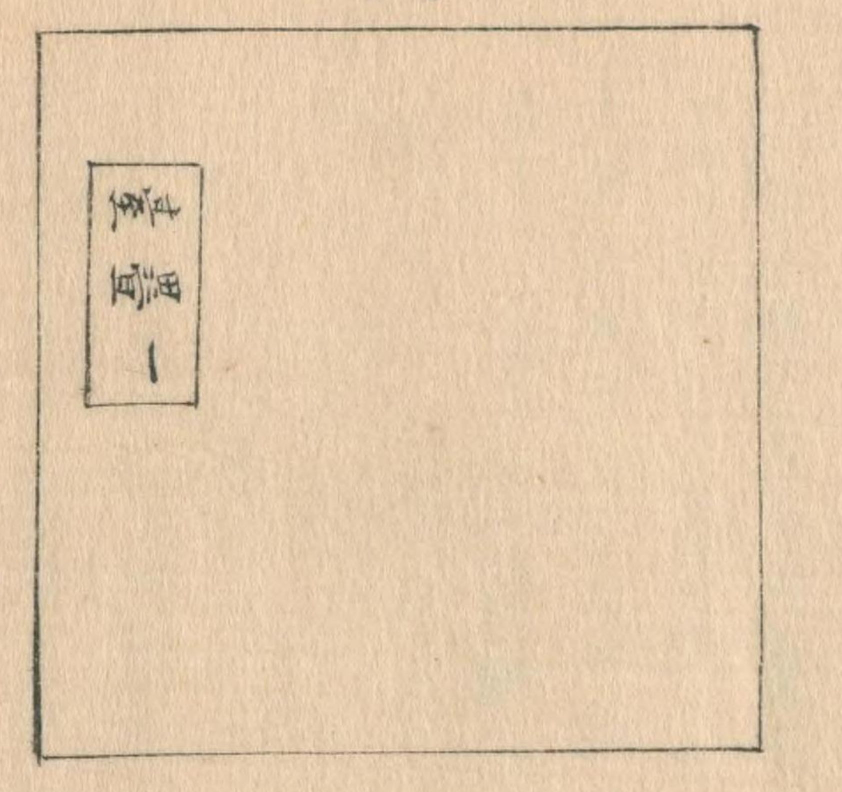
シテツレヲツレ出ル本越一声ニテ四五番目抔ニスルトキハ初シテツレヲツレズシテヰ一人ニテスル

後ツレ舞附

●下リ端ニテシテノアトニツキ盃ニ桃ヲノセ両手ニ持出一ノ松ニテ足トメ正面立ヲル●さよしおゆうふシテヘ向ソハヘ行立ナカラ桃盃ニノセタナリニシテヘワタシ夫ヨリ笛ノ上ヘ行下ニ居ル謡スミシテノアトニツキ入ル

大宮一畳臺出ス処之圖

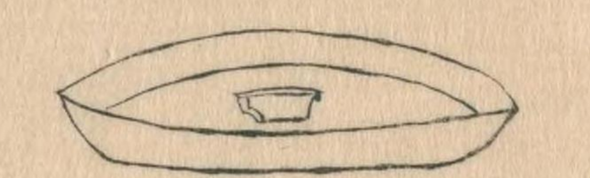
正



●初シテニ持出ル桃ノ花ノ枝ハ作リ物長サ二尺五寸ト葉ヲ付ル後ツレノ持出ル實ハ付ス枝ヲ作リ物長サ一尺五寸ツヽ實ニツ付テ盃ニノセ持出ル也同様

●西王母真ノ一声ノ時謡方真ノ一声ノ佐ニ静ニ謡フ本越一声ナレハ其佐ニサラリト謡フ

桃ヲノセル盃ノ圖 玉ノ井ノ玉ヲノセル盃ト同様ナリ



盃サシワタシ九寸七分 金ダビニテモ銀ダビニテモ

造リ花

桃ノ花壹本　長サ貳尺五寸

外ニ桃ノ花枝長サ壹尺 桃ノ實三ツ付壹本

桃ノ枝下葉横行壹尺貳寸　但シ餘花ニ而仕候

桃李物いはされともおのつから市をなし貴賤まし
はり隣切りに有難や四季折々の時をえて葉末
國土もおのつから皆花やかの花の色香

真ノ一セイノ時モ右常ノ通節文句共違イ無之尤二句モ無之是ヨリ末常ノ通リ同断

西王母

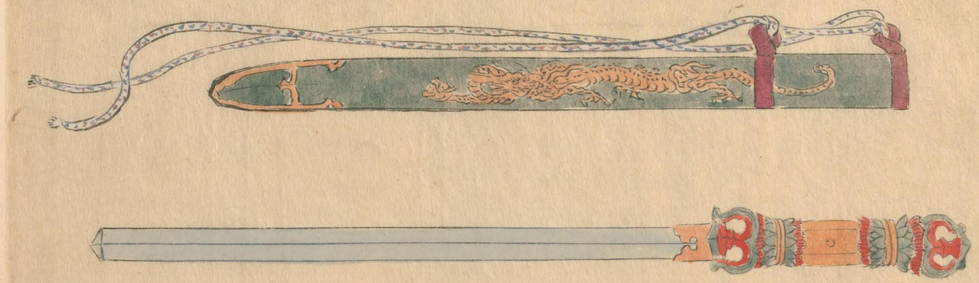
装束之覺

初シテ　面増　カツラ　カツラ帯　着付箔　襟
上着唐織　桃ノ作物

連　面増（ツレ面ニテモ）　カツラ　カツラ帯　着付箔　襟
上着唐織　黒骨金地妻紅扇

後シテ　面増　カツラ　カツラ帯　黒垂　天冠
着付箔　萌黄大口　縫紋腰帯　舞衣
太刀（カツラ帯ニテカザル）　黒骨金地妻紅扇

連　面増（ツレ面ニテモ）　カツラ　カツラ帯　着付箔　唐織（ツホ）折
大口（上着ノ上ヘ側次ヲ着スコノ時ハ大口ナシ）　襟　黒骨金地妻紅扇
桃作物



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

●初ノシテ桃ノ枝少シ体ヲハナシテ持ツ桃ノ枝サゲタル心持

初ツレ舞附　ワキ能ニスルトキ斗ツレ出ル
真ノ一声ノ時ノツレワザ

●初ツレ桃ノ枝右ニカタゲシテノ先ニ立出橋カヽリ一ノ松ニテ足トメシテト向合ツメ足メ桃李ヨリ見ヘ上ト謡フ●謡もかし謡キリ桃ノ枝カタケナリニフタイヘ入中ヘ行正向立ヲル●皆是真如のシテヘ向●謡ニても此モノ字ヨリ入カワリ直ニ笛ノ上ヘ行下ニ居見中入ニシテノアトニツキ入ル
○桃ノ枝下ニヲキ扇ヌキモチ居

シテ舞附　翁附ワキ能ニスルトキ真ノ一声
ニテツレラツレ出ルワザ

●真ノ一声高砂ノ通リニテ扇モタズ桃ノ花枝右ニカタケツレラ先ニ立出橋カヽリニテツレト向合ツメ足シテ桃李ヨリ見ヘ上ト謡イ出ス

女ロイ
桃李物いはぬ志もわのづから市成
なし貴賤ましけり謡それし▲
サシ
面白や四季折々乃時をえて其
本國たをの法から皆是真如の花
ツレト向合
乃父母ゆかる法乃ミ川の心う
新たに時や至りぬん三千年に
咲花心者折志ば其のかさしこそ
や上ハ左や君に行くぬんいさし
君にさしかせ　上ハ　まく花まのその
所心ハあ海祢くてく謡ゆく
駒に法の道ハ里乃外まくうく
そなき道に至りて明らぬ霊
山會場乃法の小を廣きをしく

▲謡キリ桃ノ枝カタヨリヲロシ一寸枝ヲ見ヘヨリフタイヘ入シテ桃ノ下ニ謡イ出ス
高砂ノ通リ四足出ヲ切ニ三足下リヲキヲキヽ面白や四季ノ花ノ下ニ謡イ出ス

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

の真ある君にたまはれ誰にてくも（此モ一字）
いさみ（ヨリツレト入カワリ此三中ニ行ワキツレ向ヘ向ヘ ワキノ方ヘ近クヨラスヤフニ下リ目ニ足ヘ ワキ此ヘ）
かる世の心かれしく
（ツレヘ向謡ノ）に奏聞よしきまゝ乃作 （ワキ）奏 歩と
ハ此ノ成事のそ 是（シテ）ハ三千年
に花咲実なる桃花なれ今此
所代ハ至り花さく事当ハ此君
乃四威徳なまそ（ワキツレヘ桃ノ枝左ノ手ソヘニ足出見スル）あふきて此きを
よしきを（ワキ上カル）そ（正）そ三千年ハ花さ
くこはいか様是ハ少及見しその
西王母かその、桃か 中（シテ上）くにそ（ワキヘ）
まこそ今ハ物いそし 是（正）されハこ
そ此君そ好さしなに此花乃
桃（シテ上）李四いそし 是（正）いしてそ乃

年月を 送（シテ）りむかへ（ワキヘ）く 此春（ワキ二足ツメル）を
（上旨）三（正）ちらせになれてふ桃のことし
よりしく花（右ウケ）さく春にあふまそ
此（正）此君のよものめくこあつき（少シ出ヒラキ）国
去のなくれ種桃花乃女そとく（ワキヘ向二足ツメル）
なる△（上ヒラキ）板ハ不思議や久かの天
津乙女乃まのあらり姿をみる
そふしきれる 鏡（シテ）ひ乃心なを
こそ露乃まに 蛍（ヒラキ）ニ袖の目
のかけ 雲（右ノ少シ上タカク見ル）のうへまくそのめくこ
あ（ワキヘ向）ゆ遠き女ゆうけりきね
うけ（正向出角ヘ行）ふ也ハ世のゆれ人君公
乃花（角トリ）なしね 紫（上ヲ見ル見ズ 二旦リテモヨシ）ハ天上れ 紫（上ヘ旦）

△カ切ニクツロキシテ桂ノキハニテ桃ノ枝持ナカラ正向立ヲル

シテ柱ノキハニテ正ヘヒラキ

こゝに悄然と薫ぬと送むりふ年八

右ウケ二足出

ふまと湧もあまきこがれ袖も満

左ノ袖ニテワキヲサシテ出ヒラキ

なゝ燃八枝して西王母乃奇男

右ヘ大キニ廻リ

よえ帰りて花の実をそなへ

シテ柱ノキハニテ正ヘヒラキ中入

いさんと天にそありき天

にもよりを浴る　管竹呂律

⊕下リ端二段
ツレヲアトニ
ツレ出ワタイ
ヘ入左右ホ
込ヒラキ身
ヲ正シ雲ト
ヤト謡出ス

乃辯くよく　またふして

音楽の声すゝしく天津風

雲の通路吹きとぢよし ⊕ 地 面白や

くかし表てんせむまゝ乃

右ウケ上ヲ見

永陛なるハ雅ゝ乃孔雀鳳凰迦

見廻シ　右ヘ二足行カヽリ

陵頻伽飛廻りし声聲に立まふ

左右ホ込ヒラキ

や袖の羽風天津乙女の衣なるらん

シテ身ヲ正ス

あまのさゝげそなふるいろ〳〵

正ヘ出

れけるもの〳〵の中に殊にみ

足トメ　左ヘ廻リ中ニテ正ヘヒラキ

えたるハ西王母乃姿ありて

いうをかしやりしくいうきなむ

シテ左ノコモラリケラシ見ル

れ羽衣をちやくし瀬まき哉

身ヲ正シ正ヘ出　扇ヲ上ケカフリヲサス

こしにさきしあん泉い乃冠

ムツロキシテ柱ノ方ヘ行

球きさゝしおやうにそれる桃と

シテ柱ノ辺ニテ桃ヲツレヨリウケトリ

おちよの〳〵よりこゝまかせし

シテワキノ前ヘ持行下ニ居桃作リ物ヲ其ノ上ニヒラキ

君ふら〳〵桃實乃　地 花の

立右ヘ廻リ正ヘヒラキ

●ワイハガヽリニモ其時ハタツハイナクサシ廻シ右ウケワイニカヽル

タツハイ中ノワイ五段

うけきこそりあへ●花そゝあや

左右ホ込ヒラキ

扇切ニ身ヲ正ス　正ヘ出ヒラキ

さうられく　手まつゝき

目付柱ノキハニテ下ヲ見テ下

る曲水のえんうやゝかものゝ

二居立正ヘ左左トガハツシ立左ヘ廻リワキ正面ヘ行カヽリ

すたりふまゝたをやめの

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

サシワケ右ヘ少々廻リ角ヘ行
袖を[illegible]たかひき[illegible]
角ニテ左ヲクリ込
[illegible]和し
左ヘ廻リワ
キ坐ヨリサシテシテ柱ノ方ヘ行シテ柱ノキハニテカサシ左ヘ廻リ正ヘヒラキ左ノ袖
[illegible]
カヘシ右ウケトメ拍子フミ入ル
伴い[illegible]
や天[illegible]
[illegible]

●半囃子ニモスル其節ハ三千年ヨリ遥イ初ル舞ニナリ
立太コ坐ヘ行舞フ舞中ノ二イ三段其外能附ノ通アトノ
トメワキ坐ヨリサシテ大小ノ前ヘ行大小ノ前ニテカサシ左ヘ少
々廻リ左右メトメル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

西王母

又菊附ニテ一声之首能ニスルトキ本哉一声ニテ
ソレソレ出橋カリニテ足トメ謡ヲ出スワサ

●桃ノ花ノ枝右ニカタゲ李越一声ニテソラ先ニ立出橋カリニテソレト向合ツメ足ナク桃李ハいろゞト謡イ出ス●陽もあ〳〵ト謡キリツヾミ長地クヅシツヽケ手是ヨリ桃ノ枝ヲロシ一寸枝ヲ見夫ヨリフタイ〳〵入シテ柱ノ先ニテ足トメ面ヲ四季折〳〵ノト謡フ●皆先生ノ如ノソレト向合●後そても此モノ宇ヨリソレト入カワリ直ニ中ヘ行ワキソレ〳〵向此末同断

右本越一声ニテ出橋カリニテ向合謡フ時ノソレ業

●李越一声ニテ桃ノ枝右ニカタゲシテノ先ニ立出一ノ松ニテ足トメニテソレト向合ツメ足ナク桃李ハいろゞト謡フ●陽もあ〳〵キリツヾミ長地クヅシツヽケ手是ヨリ桃ノ枝カタゲナリニフタイ〳〵入中ヘ行正向立ヲル此末真ノ一声ノ時ト同断

菊附ニテ一ノ之首能ニスルトキ李越一声ニテ
又ソレソレ出舞真ノ内ニテ足トメ謡ノ出ス業

●桃ノ花ノ枝右ニカタゲテ李越一声ニテソラ先ニ立出フタイ〳〵入フタイノ内ニテソレト向合桃李ハいろゞト謡イ出ス●陽もあ〳〵ト謡キリ正向桃ノ枝ヲロシ面ヲ四季折〳〵ノト謡イ出ス●皆先生ノ如ノソレト向合●後そても此モノ宇ヨリソレト入カワリ直ニ中ヘ行ワキソレ〳〵向此末同断

右李越一声ニテ出舞真ノ内ニテ向合謡フ時ノソレ業

●李越一声ニテ桃ノ枝右ニカタゲシテノ先ニ立出フタイ〳〵入中ニ行ニテ向合ツメ足ナク桃李ハいろゞト謡フ●陽もあ〳〵ト謡キリ正向●皆先生ノ如ノソレト向合●後そても此モノ宇ヨリソレト入カワリ直ニ中ヘ行ワキソレ〳〵向此末同断

又李越一声ニテソレソレズシテ一人ノ業

●李越一声桃ノ花ノ枝右ニカタゲ出フタイノ内ニテ足トメ桃李ハいろゞト謡イ出ス●陽もあ〳〵ト謡キリ出ス●後そても此モノ宇ヨリフタイ〳〵入中ヘ行正向立ヲル此末真ノ一声ノ時ト同断

●菊附ハ勿論真ノ一声ニテモ本越一声ニテモ首能ニスルトキハ初シテソレヲソレ出ル本越一声ニテ四五番目ニスルトキハ初シテソレヲソレズシテ斗一人ニテスル

後ソレ舞附

●下リ端ニテシテノアトニツキ盃ニ桃ヲノセ両手ニ持出一ノ松ニテ足トメ正向立ヲル●さてく扨〳〵ふシテ〳〵向ソハ〳〵行立サカラ桃盃ニノセタリニシテ〳〵ワタシ夫ヨリ笛ノ上〳〵行下ニ居ル謡スニシテノアトニツキ入ル

造り花

桃ノ花壹本　長サ貳尺五寸

外ニ桃ノ花枝長サ壹尺桃ノ實三ツ付　壹本

桃ノ枝下葉横行　壹尺貳寸　但シ帛花ニ而仕候

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

西王母釼之圖

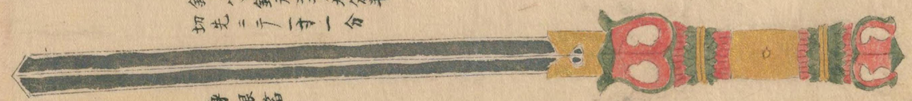
柄ノ先ヨリ釼ノ先迄二尺一寸五分

柄　六寸四分

鉏（ハバキ）元ヨリ釼ノ先迄一尺五寸二分

下緒　片ミコヒロノ方二尺五寸五分
片ミ　其下二尺三寸五分

釼ノハバキ鉏元ニテ九分半
切先ニテ一寸一分



身銀箔

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

桃李物いはぬ。志もおのゝ作ら市成なし。賞賤ましり
りも深もれし。面白や四季ゆくれ時とえらぬ草木
國土とのゝ作らえ。皆是志如の花の名香

真ノ一セイノ時モ右常之通節文句共遠イ毎之尤二ノ句モ毎之是ヨリ
末常ノ通リ同断

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

初シテ　装束之覚

面増　カツラ　カツラ帯　着付箔

上着唐織　襟　桃ノ作物

連　面増 ツレ面ニテモ　カツラ　カツラ帯　着付箔

上着唐織　襟　黒骨金地妻紅扇

後シテ　面増　カツラ　カツラ帯　黒垂　天冠

着付箔　萠黄大口　縫紋腰帯　舞衣

太刀 カツラ帯ニテカザル　黒骨金地妻紅扇

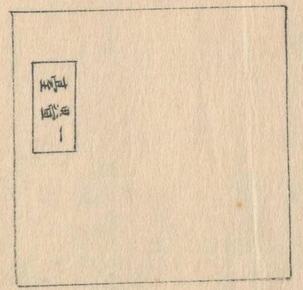
連　面増 ツレ面ニテモ　カツラ　カツラ帯　着付箔　唐織ツホ折

大口 上着ノ上ヘ側次ヲ着スコノ時ハ大口ナシ　襟　黒骨金地妻紅扇

桃作物

大宮一畳臺出ス処之圖

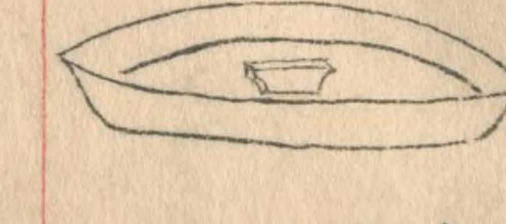
正



●初シテニ持桃ノ花ノ枝作リ物長サ二尺
ヨ寸花ト葉ヲ付ケ實ハ付ス枝ヅリ
カツラヲ見ヲ左ツレノ持テ出ルモ同様
●後ツレ盆ニノセ持出ル桃ノ作リ物本長サ
一尺實ニツ付花モ葉モ付枝ヅリカツラヲ
見ヲ本ノモトノ処ヲ盆ニクヽリ付ル

●西王母真ノ一声ノ時謡方真ノ一声ノ位ニ静ニ謡フ本越一声ナレハ其位ニサラリト謡フ

桃ヲノセル盃ノ圖　玉ノ井ノ玉ヲノセル盃ト同樣ナリ



盃サシワタシ九寸七分
金ダミニテモ銀ダミニテモ

●初メノシテ桃ノ技少シ体ヲハナシテ持ツ桃ノ技サゲタル心持

初ツレ舞附　ワキ能ニスルトキ斗ツレ出ル
眞ノ一声ノ時ノツレワザ

●初ツレ桃ノ枝右ニカタゲシテノ先ニ立出橋ガヽリ一ノ松ニテ足トメシテト向合ツメ足ノ桃李ものいはねば ト謡フ●陰も惜し 謡キリ桃ノ枝カタゲナリニフタイヘ入中ヘ行正向立ヲル●時の至れる ノシテヘ向●謡ひてもせもノ字ヨリ入カワリ直ニ笛ノ上ヘ行下ニ居ル中入ニシテノアトニツキ入ル

初シテ舞附　翁附　桃ノ枝下ニヲキ扇ヌキモチ居　ワキ能ニスルトキ眞ノ一声
ニテツレヲツレ出ルワザ

●眞ノ一声高砂ノ通リニテ扇モタズ桃ノ花ノ枝右ニカタゲツレヲ先ニ立出橋ガヽリニテツレト向合ツメ足シテノ桃李ものいはねばト謡イ出ス●陰も惜しト謡キリ桃ノ枝カタゲナリヲロシ一寸枝ヲ見夫ヨリフタイヘ入シテ柱ノキハニテ高砂ノ通リ四足出サ切ニ三足下リヲキヲキヽ面しろや四季折々のト謡イ出ス●皆な苦しきのツレト向合

靈山會場の法の庭までも

乃恵あり君しるしなれハ雛とてもこゝにあり　（朱）ヰモノヲナヨリツレト入カワ
世乃心乃されハいつも奏聞つかまつす　（朱）リ恐ニ中ヘ行ワキツレヘ向右ワキノ方ヘ近クヨ　ワキツレヘ向謡フ　ラスヤフニ下リ目ニ足トメル
乃ハ奏せよといひつる声そ　ワキ詞　是ハニ　シテ
千年に花咲実なる桃花なりつゝ今此
御代に逢ひ花咲まゝ君か蔵
徳あれハあふきて捧奉る世にハそ　（朱）ワキツレヘ桃ノ枝左ノ手ニ足出見スル　甲上ニ正
も三千年に花咲とハいへども是ハ実なる
しかも西王母の園の桃　中にも　（朱）ワキヘ　甲上
まえ今ハ時にハ　ワキ　正　あれはされす
はるかに花咲の　シテ上ニ　桃季ものいはねは
ま一つくちもれ年月を　シテ　（朱）ワキヘ　遥かにひらき
けに雲ハ　上　（朱）正　三千年にありてこそ桃もとも　（朱）三足ツメル
ウ　（朱）右ウケ　かゝく花咲きまことありける時の花　（朱）正

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

▲ヒイハガリ三モ其時ハタツハイナク左ニ廻シ右ウケテ一ニカヽル

下ニ居挑作リ物臺ノ上ニヲキ

立右ヘ廻リ正ヘヒラキ

タツハイ　中ノマイ五段▲

乃ゝ桃実乃　花乃盛りあ(る)　手を(?)

左右打込ヒラキ

花も色〻あやゆらゝきぬく　手を(?)

カリ打込ニ身ヲナラス　正ヘ出ヒラキ

乃流きう曲水乃宴かや　こかハ乃水お

正ヘ右左トクハサシ立左ヘ廻リワキ正面ヘ行カヽリ

目付柱ノキハニテ下ヲ見テ下ニ居立

たりけれまゝつゝたゝやめ乃袖も霊(?)

サシワケ右ヘサク廻リ

角ヘ行

まづをたふきまれ乃くも雲乃花

角ニテ左ヘノリ込

左ヘ廻リワキ坐ヨリサシテシテ柱ハ方ヘ行ケシ

鳥も声は和しさく雲路ようつれハ

テ柱ノキハニテカサシ左ヘ廻リ正ヘヒラキ右ウケトメハ拍子フミ入ル

左ノ袖カヘシ

王母も伴ひから　王母もやる

ひかるや天路乃りまをも志ちひう

成りにけれ

●半雛子ニモスル其節ハ三千年ヨリ謡イ初ル舞ニナリ立大コ坐ヘ行舞ノ舞中ノイ三段其外能附ノ通アトノトメワキ坐ヨリサシテ大小ノ前ヘ行大小ノ前ニテカサシ左ヘサク廻リ左右メトメル

十

岩船

ワキ

治まる御代乃四方乃国〻　関乃戸さゝ

さて通ハん　抑是ハ当今に仕へ奉る

臣下也　扨も我君賢王にましますにより

吹風枝をならさぬ民とふを

乃ゝ誠にめでたく御代治まれる　去間

摂州住吉乃浦に始めて浜の市をたて

高麗唐土乃宝を買とるべきとの宣

旨に任せ只今津乃国住吉乃浦に下

向仕り候　行末も四方ぞ治る時のめく

御影もさすや日の本乃　豊成秋津洲

乃浪も静かに四方乃海　波路遥かに

通り来て行御代乃浪乃末遠き

浦にまゐりて　松風もぞ案に
こゝろや行吉乃市のいまこゝにまゐりあり
遠里小野の芸能に造ぞ君のめくこふ
よともわし　史傳漢十里の外なれ
た寔ハ前も住吉の神と君とハ隔
なれ拙ゝ日ゝ女の陽都乃ゞへしき
伐れ倒とて寔に御幸をふるとわ
松にてくへて千世迄もだしき君
乃ゆたひぬいけても同日の下乃ぶれ
ぬみかきぞ有かゝ御いさく市に
出塩乃月面白ゝ松乃風　伴勢濤
や塩干にひろふたまくもゆく　伝え
にかりなれ此代にあふ心の玉勢かゝる時

しと生れ来るゝ民を明る樂をと何に
たとへし秋津洲やうる簾庵生も海なる
きぞ寶の市に出ゆよく　君思議
やれ市人あまた多き事ハ是成者を
能と見れば要ハ唐人なるも声ハ大和
詞なれば銀盤に玉をとゝへて持たり
ぞもしら月ハいかゝ明る人ゝ　此山かく
我御代なと作さ集りたり是成
玉を私に持たる寶なれたあまりに
めくこゝきに代なれば竜女の寶珠
とも思ひ出ぬ是ハ君に持抱えて
旨雅しく　笑治れる御代の志
にハ賢人も山より出雲人も君にて

乃緑ハあさめかく　松乃ひまも白く捨ふに

舟よするり　出づるり　住吉乃岸打

波そそうくくるも　松吹風ハせりく

とりくちめもかくやらん　其四乃

緒の音をとゞめし　濤湯乃江とやらとも

是みへよかまし　面白乃浦乃

至　又岩舟乃よるかも月のあまり

玉色くなし　雕くく人よ　引き宝

船のよりくるよしば才ハいかならん人やらん

宝人ハよし志らし　天を納文起

見城乃宝を変よくさけんかく

天乃磐船玉の波よ出し宝みよに

色さしあり　今乃何ぞ(?)…真ハ

岩舟を漕よせし　あまのはくあハ和そか

しばひきの天乃岩船雲くそ　秋津

洲根乃宮路住吉の松の緑乃里乃

栄と光よ天よまわく　久堅乃天

カイ櫂ヲ左ニ
モチ幕ノ
内ニテヒラキ
右ノチソヘ早笛
ニテハシリ出ノ
松ニテ正ヘヒラキ
右ノチハナス

乃はくめり岩船をどめし　神代の昔也

秋を又下界よすんく　神を敬ハ君を

守る秋津洲乃竜神也（出ヒラキ）　或ハ神代

乃昔いをへし　又治まれ代ハ出く

宝乃舟をも守護し　すめ　勅も重し（足出ヒラキ）

やく　此岩舟　寳をよよとう波（舞臺へ入リ舟ノ行）

乃數　相をを揃くえのやく　此(?)（左廻リ）

此岩船　あまれうくめり　以ならし數

よろこび相をとおあり（中ニテ正ヘヒラキ）　やはくら波ゐ

めぐりくさく住吉の松乃風吹よせ
よるはさえはらるはさしおきやから
ろれくく潮乃もちつる浪にうらしてて
八大龍王ハ海上に飛行し所舟のつる
手ばかりからまれ塩にひかれ
波にのけくなり浪をめくる住吉
乃岸に寶の作舟をつまかさあ数も
数万の拾物ぞしひ出しや心のとく
金銀珠玉ハふりあちくに山乃とくに
津ち乃浦にぐ君を守りたる
神ハ千代まくらしに御代と
うゆにきれ

岩船

第二
貴浪まれり四方の国々関の戸に
さて通りし 松是ハ尚今に住へなる
国下也 松も秋君賢王にましまれに
よりぬ 吹風枝をあらしに民こしを
ひらへ 誠にあらくる御代にてぐ去向
拾列住吉乃浦に始く演の市をそ
ぐ 蘇唐士の寶を買とるへしとの宣
旨に行をぐ 只今津の国住吉の浦に下
向仕ひ 行るも四に付 武州のぐく
例を首や日の本乃 国土成秋津洲
乃浪を高く御四乃海 姑洲誌趣を
掛りて御代ぐ 個の人乃 末安に津ち

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

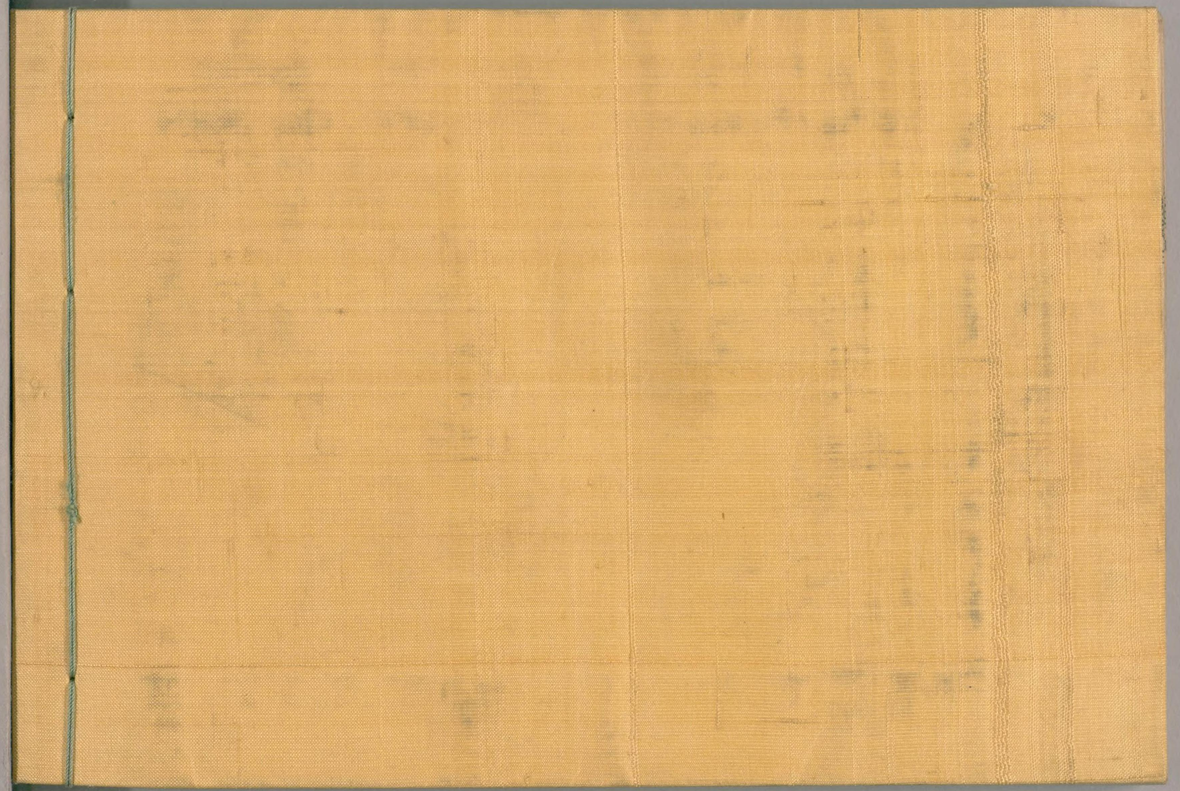
浦にまゐりく　松風もぜ栄に
こゝりや何吉乃市のいまこゝに出るなり
遠里小野の葉は遠君のめくこふ
よともわし　夫湯漏十里の外なれ
た。実ハ前も何吉の邦と君とハ満
な沢松ゆゑ沢陽都乃ゲ入しき
伐れ倒とて。実ハ御幸をかゝるとわ
松まつへて千世迄もだしき君
乃ほたひぬいけくも同日の下乃ぶれ
ぬみかきり有かゝ沢いさく市に
出塩乃月面白ま松乃風　伴坊鴻
や塩干にひろふたまくもかく　稲元
にかりなれ代にあふ己れ玉勢かゝる時

しも生れ来ぐ民共明の楽しを何に
たとへし秋津洲やう藤庫主も隠な
き寶の市に出ゆよく　不思議
やれ市人あまた多き中に是成老を
能と見れば要ハ唐人なるも声ハ大和
詞なれば銀盤に玉をとゝへ持たり
ぞもの月ハいかゝ人ゆ　同じ所
御代ゆと作き来りたりぞ是成
玉を私に持たり寶なれたあまりに
めくこゝ御代なれば竜女の寶珠
とも思ひれ作へ是ハ君に持れ来て
旨雅しく　笑治れる御代の志
にハ賢人を山より出雲人も君にて

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用